

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0173000233), 法人名 (有限会社 クレインサービス), 事業所名 (ふれあい・ふらの 「ききょう」), 所在地 (富良野市北の峰町17番10号), 自己評価作成日 (令和元年11月15日), 評価結果市町村受理日 (令和2年2月20日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0173000233-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年12月2日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

整形外科医院の院長がオーナーで、かかりつけ医でもあり、医療的な面でも充実しています。また、整形外科医院と連携し、リハビリなども行っています。バイタルリンクを活用し、常に情報を共有できるような体制にもなっています。メディカルグループの一員として、老人保健施設やサービス高齢者住宅、他グループホームとの連携も図り、市の行事(へそ祭り)など参加し、地域との交流も深めています。自然と触れ合える環境でもあり、リフト付きの車両も完備しており、外出したりしています。職員の働ける環境も風通しの良い職場をモットーに日々努めております。平成21年11月 スプリングラー設備完了 平成22年6月 浴室拡張工事を機に特殊浴槽導入

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ふれあい・ふらの」は全国にその名を知られるスキーのメッカ、フラノ北の峰スキー場のホテル、民宿そして一般住宅も混在するグレンデ麓直近に2005年、協力医療機関でもある富良野市で50年という歴史ある川村整形外科病院を法人母体として、2階建て2ユニット18人の利用者が日々暮らす事業所として開設された。当事業所の優れた点は協力医療機関である川村整形外科病院とSNSによるバイタルリンクを導入し、利用者の日常のバイタル、体調連絡は当然であるが、容体の急変、不慮のケガ等の発生時に於いて病院長を始めとした医師、看護師に写真等も含めた緊急連絡、緊急訪問診療体制が作られており、更に終末期を事業所で迎えたいという利用者、家族の思いに管理者、職員が先頭に立ち、又病院長自らも数日の泊まり込みをして最後の介護としての看取りを行っており、利用者にとっての安全、安心の万全の医療体制が挙げられる。更に当事業所では毎日浴槽に温かな湯を張り、利用者が入浴したい時、何曜日でも、何時でも入浴できるように、又日常の外出の散歩、買い物、利用者の事業所での生活を知らせるお手紙等に於いても個別対応が徹底されていることが挙げられ「心穏やかに、ありのままに、その人らしく生活が送れることを保障」するグループホーム「ふれあい・ふらの」の今後に尚一層の期待をしたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見える所へ掲示し、スタッフ間で共通認識を持ち、ケアに努めている。	職員は接遇を始めとした折々の研修時等、又同法人のメディカルグループとの勉強会等に於いて事業所理念の認識、確認を行っており、職員自らが事業所理念に基づくケア理念を作成し、日々理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、町内の行事や町内掃除に参加させて頂いている。	ホテル、民宿、一般住宅が混在する特異な地域ではあるが、町内会の運動会、ビールパーティー等には積極的に参加しており、来年度からは、月1回の”ふれあいサロン”を地域の方々の協力を得て事業所で主催する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解や支援方法を地域行事などに参加し交流を深めている。又、運営推進会議を行い、認知症の方の事でわからない事があれば、質問などして頂くよう話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を行い、ホームの状況報告や話し合いを行っている。	運営推進会議は行政、民生委員、町内会連合会長、町内会長等の出席を得て、利用者の生活状況、行事報告、ヒヤリ・ハット、事故報告等を行い”運営推進だより”は全家族に送付され、事業所、出席者、家族はその情報の共有に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加している。富良野市へ提出する書類などは随時提出しその都度、状況報告を行っている。又、運営推進会議では、市の職員の方も参加して頂いている。	市主催の2カ月に1回開催される”地域ケア会議”他研修等にも積極的に参加することとしており、行政担当者とは常に連絡を取り合うことにより情報を共有し、行政との良好な関係の構築、維持に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を作り、話し合いを行う場を設けている。また、研修に参加し、そのマニュアルなど参考にしながら、拘束のないケアに取り組んでいる。安全配慮の為、玄関のみ自動施錠を行っている。	「身体拘束廃止委員会」は3カ月に1回実施しており、議事内容は運営推進会議に於いても報告され、職員はケア会議での報告、議事録等の閲覧によって情報を共有し、身体拘束をしないケアに日々努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し報告を行う事や、月に一度のケア会議にてスタッフ間で情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話し合いまでには至っておらず、各自の制度の理解にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は管理者が行い、ご家族様に理解や納得されるような説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者への連絡調整窓口は代表者や管理者が行っているが、利用者やご家族の意見や要望などはスタッフも行き、その都度スタッフ間で話し合う場を設けている。	担当職員が利用者の近況を知らせる直筆の”お手紙”を年4回の「ふれあい通信」に同封し全家族に送付しており、情報を発信、共有する事で家族の意見を聴取する事としており、その意見を運営に反映するよう努めている。	家族の意見聴取の為に、現在年4回の「ふれあい通信」”お手紙”の個別化を更に進め、年6回の送付とし、「運営推進だより」と共に毎月1回は情報を発信する事として、運営に関する家族等の意見の反映の充実になお一層の期待をしたい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度代表者を含めた全体会議を行う他、月1度ユニットでのケア会議を行い意見や提案などを聞く機会を設けている。	管理者が年に1回職員と面談することとしており、職員個々人の目標、意見等を話し合い、又全体会議、ケア会議等の場に於いても都度意見を聴取しており、職員の意見を運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に代表者へ管理者が職場環境を報告し条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などに参加し、それを基に報告し、積極的に資格取得できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者などの交友を持ち、日ごろから交流や連絡を取り合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学なども行い、事前に相談・要望などを聞き、安心できるような環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する事前に、ホームの見学を行い、相談・要望等に耳を傾け、安心感を確保して頂けるような環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を面談などで聞き、必要なサービスを見極め、他サービス等の利用を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の日課の中で、ご本人が出来る範囲の洗濯物畳みや食器拭き等一緒に行い、協力し合えるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などご家族に近況を報告し、ご本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室内に馴染みのある物を置かれたり関係が途切れないよう考慮している。又、馴染みのある美容室や歯科などに通われておられる方もいる。	広域連合により1市3町からの利用者が入居しているが、土地柄から利用者同士、職員とも馴染みの人達が多くなっている。又車イス使用の利用者が従前からの馴染みの美容院へ行き、その帰り道の買い物等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少しのもめ事はあるが、その都度職員が間に入り、孤立しないような環境作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を維持し、必要に応じて相談や支援に努めることが出来るよう、入院先へ面会し情報交換に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を傾聴し少しでもご本人の意向に近づけるような関わりを持っている。	利用者本人の思いや意向の把握は、入居時に家族を含めて確認、文書にして記録しているが、職員は日々寄り添う介護の中で利用者本位の日常生活となるよう、又看取りも含めた終末期の把握に努め、介護計画等に記載、記録することとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談希望時などに住み慣れた生活環境などの経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で情報共有し心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を行い、スタッフ間で情報共有を行う場を設け介護計画に活かしている。	利用者の介護計画の短期目標の達成状況は担当職員がパソコンの日誌に毎日入力しており、経過状況は月1回のケア会議で検討、変更すべき事は直ちに変更し、更に3か月毎に見直しを行い、利用者本位の介護計画となるように努めている。介護計画は手書きの手紙を添えて全家族に送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に詳しく記載したり、ミニケア会議など行い、気づきに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに応えられるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会で行う行事に参加し、地域交流に努めている。運営推進会議を通じ、町内の方々」と意見交換を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週定期的にかかりつけ医師や看護師の往診を行い、医療機関との連携を図っている。また、バイタルリンクを導入し、医師や看護師との連携を行っている。	協力医療機関とバイタルリンクを導入し日々のバイタル、体調管理等は定期的に、また利用者の容体の急変、突発的な負傷時に於いてはバイタル、写真等も病院長を始めとしたスタッフに送信し、緊急連絡、医師の緊急訪問診療体制等、利用者にとって安全、安心の万全の医療体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に医療機関にて看護師が往診され連携を図り、適切なケアが出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を図り、その都度情報交換や相談を行い医療関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご本人、ご家族、医療機関と適度に話し合いを行い出来る範囲で状況や方針を共有している。	重度化に際しては従来よりの利用者本人、家族の思い、意向に従って病院長を始めとした医師、家族、職員が話し合い、看取りとするか、療養型病院への入院等を決め、看取りの場合は管理者、職員が先頭に立ち、病院長も泊まり込みの体制とし、事業所全体で利用者に対しての最後の介護をする事としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、研修などに参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練、1回災害訓練を行っている。利用者、地域の方にも参加して頂き、協力体制を整えている。	各居室に懐中電灯、冬期の停電の為に灯油ストーブを常備しており、隣接するホテルとの間で避難所としての了解を得ており、家族にも告知されている。外注の食事は2018年の地震時にも滞ることはなく配送され、利用者にとって安全、安心の災害対策となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならないよう、誇りを損ねないような関わりができるよう努めている。	利用者に対する呼びかけは“さん”付けを基本としており、各種研修時に於いても接遇は介護の基本との認識を再確認しており、一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保に日々努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を尊重し、ありのまま受け入れその人らしい生活が送れるよう、傾聴できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問美容院に来て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割が決まっていて、利用者と職員一緒に食事の準備や、配膳、下膳など行っている。	食事は外注ではあるが、細やかな気遣いの元に常に湯気のある温かな料理が配送されている。又配膳等には利用者の手伝いもあり、職員も同席同食としており、利用者が大好きな寿し等を年に2回程出前を取る等して食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社と連携し個々に沿った食事形態にしている。献立は管理栄養士が立て、栄養バランスなど確保している。きざみにはトロミをつけ、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝時には、声かけや介助にて個々に合った口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけや誘導を行い、その人に合った支援を行っている。排泄のパターンが分かるよう記録に残している。	職員は排泄チェック表に従い利用者のプライバシーを損なわない細やかな気遣いで時間誘導、声掛けを行い、又サイン、仕草等を見逃さないようにして、トイレでの排泄が基本となるよう日々努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や水分量の確認などし、腹部マッサージなど行い、便秘にならないような予防に取り組んでいる。時には下剤を使用する事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる環境にし、個々に沿った支援をしている。	リフトイス付きで介助者の負担を軽減できる2、3人の介助が可能な特書浴槽を設備し、その浴槽に毎日温かな湯を張り、利用者が入浴したい時にいつでも入浴できる体制にしてサービスの個別化が図られている。利用者はイスに座ったまま温かな湯に浸かる入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じ、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し、服薬と症状の変化を確認できるよう努め、症状の変化に対応できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、ご本人の健康状態に配慮し、役割や趣味、気分転換などできるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方々の協力は得られていないが、ご家族の協力を得て、ご本人の希望に沿った外出ができるよう支援している。	桜と紅葉の季節に希望者を募ってのドライブを行っており、又殆どの利用者が週1回法人の整形外科病院へのリハビリに外出を兼ねて通院し、その帰りに買い物等を楽しんでいる。日常的には事業所の周りを散歩する等、外出に於いても個別化が図られており、職員は利用者が閉じこもらない介護を目指して日々努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則ホームにて管理しているが、ご家族了解の元、希望に応じて所持金を持つたり使用できる支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の電話を自由に使用できるようにしている。又、ご家族から荷物が届いたら、お礼の電話をしたり、葉書やお手紙が届いた時にはご本人にお渡しし、ご家族や大切な方との交流がもてるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節や行事に応じた環境作りに努めている。	共有空間のリビングと食堂は広く床はフローリング、壁は白く開放的な明るい造りとなっており、利用者同士、そして職員との楽しい会話と笑い声があり、食堂のテーブルには温かな料理が載り、その揺れる湯気の向こうに同席同食の利用者と職員の笑顔がいつも一緒にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファ等置き、思い思いで過ごせるような環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には慣れ親しんだ物を利用したり、写真を飾られたり居心地良く過ごして頂けるようにしている。	居室は利用者が一人になる空間であり、使い慣れた家具、家族の写真を置くその中で、過ぎし時、そして今の時を思う利用者は職員の”心穏やかに、ありのままに、その人らしく生活を送れる事を保証します”という理念の介護の中で、グループホーム「ふれあい・ふらの」で安心感のある日々を暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが分かりやすく、使いやすい環境作りをし、情報を共有し対応することで安全で自立した生活が送れるよう心がけている。		